

令和5年3月20日

報道関係者 各位

令和5年度子供の読書活動に係る文部科学大臣表彰について

標記の件について、本市で活動している下記団体が、4月23日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催される「令和5年度子どもの読書活動推進フォーラム」（主催：文部科学省、国立青少年教育振興機構）において、令和5年度子供の読書活動優秀実践団体として表彰されることが決定しましたので、お知らせします。

記

表彰される団体

グループ たんぽぽ

※ 概要は別紙のとおり

備考

- ・本市における子供の読書活動優秀実践「団体」の表彰は初となります。
- ・これまでの表彰実績は下記のとおりです。
 - 平成25年度 島原図書館（図書館）
 - 平成28年度 島原市立第五小学校（学校）
 - 平成29年度 島原市立有明中学校（学校）
 - 平成30年度 有明図書館（図書館）
- ・参考に、長崎県報道機関発表資料を添付します。

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原



担当：島原市教育委員会社会教育課
社会教育文化班 担当 林田
電話：0957-68-5473
E-mail：shakyo@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

島原市における令和5年度子どもの読書活動優秀実践団体の概要について

1. 団体名 グループ たんぽぽ
2. 設立年 昭和59年5月
3. 代表者 大隅 泰子
4. 会員数 3人
5. 活動場所 島原図書館

6. 団体概要

島原図書館の前身、島原公民館で昭和52年4月にスタートした「童話を読んで聞かせる会」がきっかけとなり、昭和59年5月に「グループたんぽぽ」として毎月一回のお話し会「おはなしひろば」が始まった。昭和61年7月31日に島原図書館が開館し、「おはなしひろば」の会場は島原図書館へ移り、今日まで、子どもたちに読み語りや紙芝居で、お話の楽しさを伝える活動を続けている。

「たんぽぽのわた毛が風で飛ばされて、おはなし会の輪がひろがったらいいな」というグループ名の由来のとおり、お話し会の活動は島原市内各地の公民館での図書ボランティア団体の設立へとつながった。

近年は、市や図書館が主催する研修会に積極的に参加することで、他の団体との交流を深め、長年にわたる子ども読書活動の経験を多くの人に伝えている。また、他のボランティア団体の依頼により研修会の講師を務めたり、個別の相談に対応したりと、本市図書ボランティア団体の活動を支える存在でもある。

当該団体は、約40年にわたる地道な活動の中で、学校や幼稚園、保育園、公民館等との連携により、地域の子どもの読書活動に力を尽くしてきた団体である。コロナ禍において様々な活動が制限される中にあっても、「活動を止めてはならない」と、今も子どもたちのために、悩める後進の図書ボランティアのために、先頭にたって活動を継続している。

7. 活動内容

- ・読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、手あそびなど、様々な手法を用いて読書の楽しさを伝えている。
- ・毎月第4土曜日に、島原図書館で、お話し会「おはなしひろば」を実施している。
- ・島原図書館において、春は「たんぽぽおはなし会」、冬は「クリスマスおはなし会」を開催し、読み語りや紙芝居を行っている。
- ・島原図書館における「おはなしひろば」などの活動は、令和3年度末で、332回になり、7,658人の子どもたちが参加した。
- ・平成18年度の「ながさきおはなしフェスティバル in しまばら」、平成19年度の「島原半島おはなしフェスティバル」においては、参加する数多くの図書ボランティアの中核として、企画・運営に携わった。
- ・令和5年1月15日には、島原城築城400年記念事業実行委員会が島原城で実施した「島原いろはカルタ取りお話し会」に協力し、子どもたちに読み語り等を行った。

8. 活動の様子

「たんぽぽおはなし会」（会場：島原図書館）



平成 9 年度から
始まり、これまで
21 回開催し、
1,032 人が参加し
た。

「クリスマスおはなし会」（会場：島原図書館）



平成 8 年度から
始まり、これまで
26 回開催し、
1,597 人が参加し
た。

9. 参考資料 別添のとおり

島原図書館「おはなしひろば」 実施状況

出典：「図書館この一年」「島原図書館要覧」「島原市図書館要覧」

年度	回数	人数	備考		
昭和61年度	※	※	昭和61年7月31日に島原図書館が開館 ※統計資料なし		
昭和62年度	12	739			
昭和63年度	12	394	「おはなしひろば」毎月第3土曜日に開催		
平成元年度	12	438			
平成2年度	12	405			
平成3年度	10	313	平成3年6月3日 大火碎流発生		
平成4年度	11	251	「おはなしひろば」が開催されない土曜日に図書館職員が行う「おはなしのじかん」が開始。H4年度実績：29回、553人		
平成5年度	11	188	毎月第2金曜日に利用者と職員が一体となって研修する「子どもの本を読む会」が開始、平成5年度実績：12回、113人	クリスマス会	たんぽぽまつり・たんぽぽおはなし会
平成6年度	11	173			
平成7年度	10	147	毎月第4土曜日の開催となる		
平成8年度	10	179	島原図書館開館10周年、「クリスマス会」を開始		
平成9年度	8	122	「たんぽぽまつり」を開始	168	44
平成10年度	8	164		105	27
平成11年度	8	123		160	80
平成12年度	7	116		73	83
平成13年度	6	114		90	130
平成14年度	9	158		62	76
平成15年度	6	144		73	50
平成16年度	10	145		58	32
平成17年度	10	163		23	23
平成18年度	10	136	島原図書館開館20周年、「ながさきおはなしフェスティバルinしまばら」の開催	64	
平成19年度	9	264	「第1回島原半島おはなしフェスティバル」の開催	47	
平成20年度	8	212	「子育て支援ボランティア花」による毎月第4水曜日に「おはなしのじかん0,1,2」が開始。平成20年度実績：6回、136人	40	
平成21年度	10	260		74	85
平成22年度	11	279		63	68
平成23年度	10	247		61	75

年度	回数	人数	備考	クリスマス会	たんぽぽまつり・たんぽぽおはなし会
平成24年度	10	146		36	30
平成25年度	10	196		32	27
平成26年度	9	154		49	32
平成27年度	10	130		37	45
平成28年度	9	219		60	47
平成29年度	10	244		25	25
平成30年度	10	287		38	38
令和元年度	9	280		39	10
令和2年度	7	53	新型コロナウイルス感染症の拡大	14	中止
令和3年度	7	75	新型コロナウイルス感染症の拡大	26	5
	332回	7,658人		1,597人	1,032人
				26回	21回

島原図書館における「グループたんぽぽ」の活動：実施回数379回、参加者数7,705人
(令和3年度末現在)

「幼児・児童の読み聞かせ会」の会員募集

島原公民館図書では、四月から幼児・児童を対象に「童話を読んで聞かせる会」を開きます。

最近、マンガばかり読む子どもたちが増えています。

良い本を読んで聞かせることによって本に親しみを持たせ、知性と教養を身につけ、将来の人間形成に役立てるために始めるものです。

子どもさんの加入をおすすめします。

日時 毎月第三土曜日、午後二時から三時まで（第一回は、四月十六日の予定です。）

場所 島原公民館内児童閲覧室

対象者 満三歳から小学校二年生まで。

申込み 四月九日（土）まで島原公民館までお申し込みください。

詳しくは島原公民館（電話三一二三四二）へお尋ねください。

『広報しまばら』第272号
昭和52年3月



「幼児・児童の読み聞かせ会」会員募集

子どもたちに、豊かな心をはぐくもう……という目的で、昨年四月からはじめました「幼児・児童の読み聞かせ会」は、楽しくなごやかなふんいきの中で、一年間が過ぎました。

現在会員数は二十名程度ですがほとんどが小学生です。

そのため今回は、幼児会員だけを募集します。

日時 毎月第三土曜日、午後二時から三時まで

場所 島原公民館

募集対象者 満三歳から六歳（小学校入学前）まで

申込み先 ご希望の方は、いつでも結構です。島原公民館（電話三一二三四二）へどうぞ。

『広報しまばら』第285号
昭和53年4月

童話の読み聞かせ会

毎月第三土曜日に

森原公民館（別館）では、毎月第三土曜日の午後一時三十分から幼児・児童を対象に「童話の読み聞かせ会」を開いています。

お母さん方や子どもの本を好きな人たちが集まって、本の読み聞かせについて、話し合ったり、練習したりして、家庭から地域へと、読み聞かせの輪を広げていきます。

あなたも参加してみませんか。

参加申込みやお問い合わせは森原公民館（別館）図書室（電話二一六二九一）へおたずね下さい。

『広報しまばら』第359号
昭和59年5月

読まれた本7万9千冊

開館して半年、島原図書館

子供や主婦に人気

利用者は2万9千人

学校が終る午後二時すぎから、図書館は小さな手提げを持った小学生や買物帰りの主婦らでにぎわっています。

昨年七月末にオープンして二月までの半年間に図書館を利用した人は、一万九千三百二人で、日平均約三百人が利用したことになります。

内訳は、児童が半数を占め、なかでも小学生が最も多く、続いて三歳前後の主婦、二歳前後の

青年層、中学生の順。

本を借りるときは、貸出券が必要ですが、半年間に登録した人は市内だけで六千五百二十八人、市内人口の一四・二%の人が登録して貸出券を持っています。

県内の公立図書館の平均登録率は二・六%ですので、島原市民の図書館利用率は高いといえるでしょう。

また、島原半島の文化の殿堂といわれるように深江町や有明町、国見町など半島全域で約九百九十人が登録しています。

登録者の内訳は、大人が五千百



家族連れでにぎわう島原図書館

島原半島の文化の殿堂、生涯教育の場・島原図書館が昨年七月末オープンしましたが、開館して六カ月目の一月三十一日現在、皆さんに読まれた本は七万九千五百四十五冊でした。

蔵書数は一般、児童図書を含め二万九千三百六十二冊になり、貸し出しサービスのほか、子供と本との出会いの場として「お話し広場」や「名作を見る会」などを開き、地域に根ざした図書館に回っています。

今回は、六カ月が過ぎた島原図書館に水しりを当ててみました。

六十人六九%、児童が二千三百三十人三三%。

休日は家族連れで読書

半年間に貸し出した本は七万九千五百四十五冊。月平均一万三千二百五十七冊、一日平均では五百三十三冊が皆さんに読まれたことになります。

年代別では、一二歳以下の児童が四万二千三百五十三冊借りて、全体の五三・一%を占め、一九歳から三〇歳まで一万九千九百七十三冊、三〇歳以上が一万二千三百六十冊、中、高校生が六千五百冊となっています。

これを県内の公立図書館の月平均貸し出し数で見ると佐世保市が一万四千四百冊でトップ、続いて本市の一万三千二百五十七冊となっていますが、人口の割り合いから見ると本市が県内で一番の貸し出し数です。

月別の貸し出し状況は、オープンと子供の夏休みが重なった八月が最も多く一万六千八百十冊、続いて読書の秋を反映した十月の一万四千六百八十五冊、以下九月、十一月、十二月、一月の順。

図書の貸し出しのほか、ビデオリスニングコーナ―を利用した人は、カセット二千九百一人、ビデオ七千八百八人、レコードやレーザーディスクなど合計四千六百五十七人、主に小学生の利用が目立っています。

図書館は、一部の読書家や学生らが試験勉強や専門知識を得るた



菅 亜沙子ちゃん (小・1・1年)

わたしは、としよかんがだいすきです。
それは、本がいっぱいあるからです。わたしは、まい日としよかんにいきたいです。
わたしの見たい本は、まだたくさんあります。

図書館で読書をする菅亜沙子ちゃん畑と眞理子ちゃん
んで、好きな本を見ることがあります。ときどきワゴンがあって、本をたのみます。ちかくととしよかんができほんとうによかつたです。

菅 眞理子ちゃん (小・1・1年)

わたしは、としよかんの本が大好きです。見たい本が、たくさんあるからです。わたしのよく見ている本は、なぞなぞやよりよりの名まえのついた本です。

ときどきおはなはなひろばで、えいがやがみしばいを見ます。わたしは、花の本やどうぶつの本をたくさんとってほしいです。わたしは、ずっとたくさんのお本を見たいとおもいます。(原文のまま)

楽しい図書館

めの場として活用することがイメージとしてありますが、今では、幼児、小学生を中心に子供連れの皆さん、休日を利用して書庫や近郊から来る家族連れが増え、本を読む人は静かに広まっているようです。

蔵書数は二万九千余冊

一月三十一日現在、図書館には二万九千三百六十二冊の蔵書があります。

一般図書は二万一千四百四十九冊で、内訳は文学書四千四百四冊、小説三千四百五十五冊、社会科学三千九百九十二冊、芸術書、歴史地理……となっています。

児童図書は八百九十六冊のうち、読み物五千五百五十三冊、絵本二千五百四十一冊、紙芝居百二

これらの本は自由に閲覧することができ、貸し出しには「貸出券」が必要になっています。

「貸出券」の登録受付は随時行っていますので、図書館カウンター係員に申し出て下さい。

各公民館に分室を設置

「図書館まで遠くて行けない」、「仕事や家庭の事情で利用できない」という人のために、市内六カ所の公民館を昨年十一月から島原図書館分室としています。

二百五十冊程度の本を三会から順に安中公民館まで月一回配本しています。

公民館が開館しているときはいつでも利用できますが、土曜日の午後と日曜日は休んでいます。

貸し出し方法は本館と同様、「貸出券」が必要です。お気軽に二利

用下さい。

読書は子供のうちから

読書は生涯教育の友といわれ、本を読むことで、いろいろな知識を手えるばかりでなく、教養という目に見えない財産を知らず知らずのうちに身につけてくれます。

図書館では、図書の貸し出しのほかにも子供を対象とした「お話し広場」や「名作を見る会」を月一回ずつ実施しています。



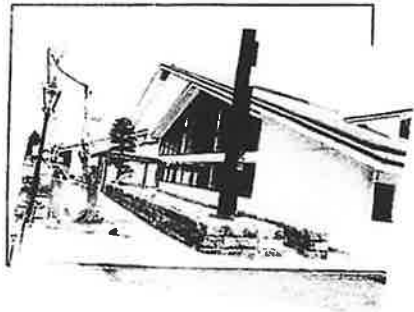
子供が楽しみにしているお話し広場

これは小さい子供を持つお母さんがボランティアで紙芝居や、お話し、名作映画などを上映して、子供たちに小さいうちから本に親しんでもらおうと優しい心遣い。子供たちは、「お話し広場」や「名作を見る会」の開催を心待ちにしています。

また、ボランティアグループ、ゆずの会では、目の不自由な人に月一回、朗読サービスを実施して、地域に根ざした開かれた図書館を目指しています。

今後、図書館ではボランティアグループの協力で、主婦を対象にビデオなど視聴覚設備を使って、音楽や園芸など趣味の講座を開く予定です。

さあ、これを機会にあなたも読書にアタックしてみませんか。



島原図書館が開館して今年の7月31日でちょうど3年がたちました。

その間、島原図書館は多くの人たちに利用され、たくさんの本が読まれ、みなさんの文化・教養の場として年々親しまれています。そこで今回は島原図書館について紹介します。読書の秋に向けて島原図書館をみなさんの知恵袋としてもっともっと活用してみませんか。

みんなに親しまれて3年がたちました

基準を上回る利用

ドキドキ、ハラハラの連続で目が離せない冒険小説。思わず結末を読んでしまいたい推理小説。夢いっぱいの絵本。見ると食べたくなる料理の本。読むと眠くなる専門書。見ても読めない古書。昔のことが知りたい郷土誌。読むと眉間（みけん）に皺（しわ）が寄る辞書。気楽に読みたい雑誌。……

本だけではありません。最近の図書館は映像を楽しむビデオやレーザーディスク。音楽を楽しむレコードやCDなど知識や教養を高めるいろんなものがそろっています。

「島原にも図書館ができるといいのになあ」と市民みんなが長い間待ち望んでやっとできた島原図書館も開館して早くも3年がたちました。

情報化時代の新しい図書館として、貸し出しと子どもへのサービスを支えた運営も軌道に

乗り、開館から貸し出された本は



四十三万五千二百七十七冊。貸し出しを利用した人は十五万一千六百十二人でした。年平均にすると、利用者は島原市の人口を上回る約五万人、貸し出し冊数は約十四万五千冊で市の人口の約三倍となり、公共図書館の望ましい基準（人口の二倍）を上回りました。

この三年間に貸し出された図書を年代別に見ると七歳から九歳までの子どもが三三%と圧倒的に多く、図書を借りています。

また、十二歳以下の子どものを全部合わせると図書館の本の四四%を子どもたちが借りていることになり、図書館の開館によって子どもたちの読書の習慣が身に付いていることがうかがえます。これに続いては二十歳代となつていきます。

島原図書館

島原城の堀端南側に位置する島原図書館は昭和六十一年七月三十一日に開館。県内で初めて本格的なコンピュータを導入した図書館として県内外から注目を集めています。建物は和風造りで、大きく葺き下ろした瓦屋根や白い外壁、道路に添って築かれた石垣塀などのデザインは周辺の景観にあった図書館として昭和六十二年度島原市まち並景観賞を受賞。いっそう市民に親しまれています。

蔵書数

・図書48,392冊・雑誌56誌・新聞10紙・カセットテープ323本・ビデオテープ238本・レーザーディスク123枚・コンパクトディスク15枚・レコード127枚

主な催しもの

- ・名作を見る会（上映）
毎月第2日曜日 児童対象
- ・おはなしひろば（紙芝居、映画など）
毎月第3土曜日
- ・やさしい郷土史（講座）
毎月第2水曜日
- ・ビデオで学ぶ（スクリーン広場）
毎月第4木曜日または第4日曜日

年代別読書状況 (開館3年間)

年代	～6才	～9才	～12才	～15才	～18才	～22才	～30才	～45才	～60才	61才～	合計
男	7,668	49,756	9,558	9,882	2,240	12,391	24,196	13,021	14,088	13,907	156,907冊
女	9,351	93,355	17,959	20,225	6,797	31,715	56,201	19,822	8,840	6,951	271,226冊
計	17,219	143,111	27,517	30,107	9,037	44,106	80,397	32,843	22,928	20,858	428,133冊

※雑誌(6791冊) 仮登録(293冊)を除く

基準は人口の一五%です。これ以上回っています。

グルメブーム到来

最も多く貸し出された本は、児童書では「一ねんくみ一ばんなかよし」が毎年度二百回を超え、大きな変化は見られません。しかし、一般書では当初「サラダ記念日」や赤川次郎のミステリーものなどベストセラーものが主流でしたが、最近

男女別では女性の利用者が多く六三%を占めています。

次に本を借りるのに必要な貸出券を発行した登録者は一万四千四百三十三人、このうち島原市民は一万一千四百二十二人で市の人口の約二十五%、市民の四人に一人が図書館を利用していることになりました。

また、望ましい

は料理、クッキングなど若い婦人向けの本の貸し出しが多く、図書館もグルメブームの到来といったところだ。



一方、蔵書は現在約四万九千冊、このうち一般向けが三万四千五百冊、児童書が紙芸居を加えて一万三千八百五十五冊。図書の構成は、利用者の意向や利用状況を基本に対応しています。昭和六十三年度のリクエスト三百九件のうち二百七十四件を購入入または他館(国会、県立図書館)から取り寄せて対応しました。

また、図書の発注システムも東京の図書館流通センターとの間でオンライン化され、発注から納品までの期間を短縮。更に九月には県立図書館との間のオンライン化を予定。利用者のリクエストへの対応、出版情報の

入手などが迅速化されます。このほか図書館には、カセットテープやビデオテープもありましたが、現在カセットテープについては貸し出しをしています。ビデオテープについてはこれはまだ著作権法で貸し出しが禁止されています。しかし、一部については貸し出しが承認されたため、島原図書館でも九月から承認済みのビデオテープに限り貸し出しを始める予定です。

分室の整備充実を

このように島原図書館が開館して三年、利用状況をはじめ設備、機材など順調な足取りを見せ、いよいよ公平な図書館サービスという点では課題もあります。中心部の利用者は毎日図書館を利用できますが、図書館から離れた地区の利用者、特に児童の利用が土曜、日曜に限られることです。

したがって今後は、離れた地区の児童も公平なサービスが受けられるように、各公民館にある図書館の分室を蔵書と管理の双方から整備充実を検討していく必要があるようです。

昭和61年度

最多利用図書

昭和61年度			昭和62年度			昭和63年度			平成元年4月～7月		
順位	書名	著者名	順位	書名	著者名	順位	書名	著者名	順位	書名	著者名
1	サ・カー基本プレー	加藤 久	1	サラダ記念日	俵 万智	1	マイ・ケーキ	浅田 峰子	1	ゼリー・ババロア・アイスクリーム・シャーベト	小菅 陽子
2	教室のミステリーだよスミーズ	チャールズ・シュルツ	2	幽霊心理学	赤川 次郎	2	ゼリー・ババロア・アイスクリーム・シャーベト	小菅 陽子	2	おしやれなお菓子	日本放送出版協会
3	あやとり全書	武内 元代	3	三毛猫ホームズの幽霊クラブ	赤川 次郎	3	お母さんがんばって	吉岡 たすく	3	シュークリームとパイ	天野 悦子
4	風の御	渡辺 淳一				4	教室のミステリーだよスミーズ	チャールズ・シュルツ	4	サラダ記念日	俵 万智
	恐竜探検	レイ・ウィット・ヒショフ				5	サラダ記念日	俵 万智		マイ・ケーキ	浅田 峰子
	自殺行き往復切符	赤川 次郎									
	ディズニーク・キング										
	トンネルに消えた	西村 京太郎									
1	一ねんくみ一ばんなかよし	後藤 竜二	1	一ねんくみ一ばんなかよし	後藤 竜二	1	一ねんくみ一ばんなかよし	後藤 竜二	1	こまったさんのサラダ	寺村 輝夫
2	のら犬ノラさん	竹崎 有斐	2	のら犬ノラさん	竹崎 有斐	2	のら犬ノラさん	竹崎 有斐	2	親カバ子カバカバダバダ	森山 京
3	えんそくわいぞあふないぞ	末吉 暁子	3	えんそくわいぞあふないぞ	末吉 暁子	3	親カバ子カバカバダバダ	森山 京	3	一ねんくみ一ばんなかよし	後藤 竜二
4	全負りーまる秘大作戦	森山 京				4	えんそくわいぞあふないぞ	末吉 暁子	4	こまったさんのスパゲティ	寺村 輝夫
5	王さまいぞくせん	寺村 輝夫				5	こまったさんのサラダ	寺村 輝夫	5	こまったさんのハンバーグ	寺村 輝夫



愛される図書館を目指して

意見交換

グループ「たんぽぽ」

グループ「たんぽぽ」は、子どもを持つ本好きのお田さん9人と島原図書館職員3人でつくっているグループです。

昭和59年に発足して以来、子どもたちに読み聞かせや紙芝居を通して、本に親しむ機会をつくっています。

島原図書館が開館してから毎月第3土曜日に続けている『おはなしひろば』は、子どもたちの人気を集めています。

毎月一回「おはなしひろば」を通じて、島原図書館を利用してのグループ「たんぽぽ」のメンバー6人と鐘ヶ江市長、長井館長を囲んで図書館について語ってもらいました。



鐘ヶ江市長



山田 和子さん
(浦田2丁目)



廣瀬由美子さん
(南下川尻町)



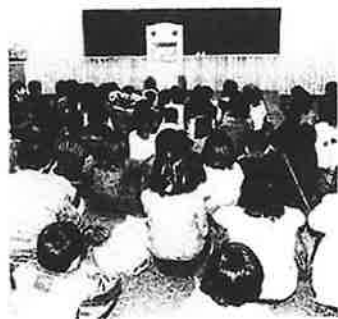
小柳 摂子さん
(城内3丁目)

市長 本日はお忙しいなかお集まり頂きありがとうございます。島原図書館をみなさんに利用していただくようになり、三年がたちました。おかげをもちまして、たくさんの人たちに利用していただいています。みなさんたちには開館からずっと「おはなしひろば」を開いていただき感謝しています。それではまず会について話を聞かせて下さい。

山田 「たんぽぽ」の会ができて五年以上になります。今まで続けてこれたのは無理のないように細々とでも長く続けていくという気持ちがあったからです。これからも末長く続けていきたいと思っています。

市長 みなさんが会に入ったきっかけや図書館についての感想抱負などがあればお願いします。

廣瀬 私は学生時代に子どもたちに人形劇などを見せて回るようなサークル活動をしていたこともあって、子どもの文化活動に携わる機会がないかと思って



いました。でも家が商売なため定期的な会には参加できないので半ばあきらめていたのですがこの会のことを聞いて、飛びつくように子どもと一緒に参加させていただきました。おぼろげやんになってもここにきて子どもたちに絵本を読んであげたいと思っています。

加藤 私は島原に来て二年半になります。前にいたところでもよく図書館を利用していましたが、ここの図書館は広くて、明るくて、新しい本もいっぱいあってびっくりしました。私は会に入ってからまだ間もないですが、

子どもたちの話を聞いているときの輝いた瞳を見ると、もっと続けていきたいと思っています。

塩崎 私は家の仕事と子育てに悩んでいたとき、子どもに本を読んでもらいたく参加しました。数年前のことになりますが「私の夢」という題で子どもの作文が新聞に載ったことがありました。そのなかに「人のためになる人間になりたい」と書いていたので、私はよくそんな言葉を知っていたなと感心して子どもに尋ねたところ「図書館で聞いて覚えた」と答えました。このとき私はこの会を続けていてほんとうによかったと思いました。自分のストレス解消の場として利用させていただいた子どもにもいい勉強になりました。仕事は忙しくて行けないこともありますが、自分のためにも続けていきたいと思っています。

山田 もともと私は声を出して本を読むことが好きでした。初



長井駿一郎館長



塩崎ヨシミさん
(霊南1丁目)



加藤 秀子さん
(萩原2丁目)



宮崎 智子さん
(白土町)

めは自分が好きなことをして子どもが喜ぶことをしてやれると軽い気持ちでした。「たんぼぼ」の会は私の真ん中の子と一緒に歩んできたようなものです。六年前島原にきたときに本を読んでも聞かせるような活動はないかとあちこちに電話したところ、この会がちょうど会員を集めていることを知って参加しました。小柳 私は図書館開館のときに入会し三年になります。特に会員というよりもお手伝いをさせていただいています。宮崎 私も図書館開館のときからです。後から入ってまだお母さんたちに見せてもらっているという感じです。もつと本を勉強して子どもたちにいろんなお話を聞かせてあげたいと思っています。市長 無理をせずに集まった人だけでもやって行くというみなさんの気持ちがこの会を育てているのですね。図書館の職員でもある小柳さ

ん、宮崎さん、図書館の仕事を実際にやってみて本に対する情熱は変わっていませんか。小柳 思っていたより仕事がいへんですね。仕事がついときもありますが情熱がしぼんだというようないいありません。館長 特に今は夏休みのため毎日、たいへんな忙しさです。宮崎 やっぱり変わっていません。今でも本が大好きです。市長 みなさんが本が大好きでこの活動を続けていらつしやることはたいへん尊いことです。今、活字離れが盛んに言われているなか、本を愛し、子どもに本を読んで聞かせてくれる人がいることを私はほんとうにうれしく思っています。館長 紙芝居などをやってみて「こんな道具があればいいな」というのはありませんか。廣瀬 照明用のライトが欲しいですね。私たちは手作りでも道具がないんですよ。それでみんなで工夫しながら毎回やって

いる状況です。市長 みなさんがこの活動を盛り上げるほどいろんな道具が必要になります。施設のことでも十分なところがあれば、現在の予算のなかで処理できる範囲でこちらのほうでやっていきます。廣瀬 児童図書と一般図書のコーナーを防音壁などで区切れないのでしょうか。館長 非常に難しい問題ですね。図書館はカウンターから全部が見渡せるというのが基本です。もう少し大きな市であれば可能ですが。廣瀬 読み聞かせの絵本を捜してわかりましたが、大人は読む本をきめて本を捜しますが絵本は一冊一冊出して読んでみないとわかりません。だから子どもたちにもいろんな本を自由に選ばせたいのですが。館長 子どもの本の読み方は、本の表紙や中の絵を見て読みたい本を決めています。どんどん使い捨てみたいに本を取り出し

ていい本を見つけたときに目を輝かせて絵本を見る。それが一番大事なことです。そのためにたくさん本の必要なのです。本屋から一、二冊お母さんたちが「これ読ましようね」と買ってきた本はまったく意味がありません。それよりも図書館へ連れて来る方がよっぽどましです。強制はダメなのです。山田 今日の意見交換で図書館のことがよくわかりました。こうした機会をつくっていただきほんとうにありがとうございました。館長 やはりこういう機会がないとなかなかわかってもらえません。今後も愛される図書館を目指していきたいと思っています。市長 本に親しむということは非常に大事なことです。みなさんに利用しやすい図書館。来てよかった、利用してよかったと言われる図書館にしていきたいです。本日はほんとうにありがとうございました。

たんぽぽのわた毛は飛んだ

グループたんぽぽ 山 田 和 子

島原図書館創立20周年記念おめでとうございます。

私にとって、島原図書館20年の歩みは、おはなしひろば“たんぽぽ”の歩みでもあります。この場をお借りして、私のおはなし会活動の原点でもある“たんぽぽ”の歩み、そして現在のおはなし会活動を含む読書活動について少し書いてみたいと思います。

昭和59年、現在の図書館が建っている場所にあった公民館を拠点として、おはなしひろば“たんぽぽ”が産声を上げました。当時職員として公民館に勤務していた大隅泰子さんを中心に、7、8人のボランティアが集まり、読み聞かせのノウハウもわからないまま、「子ども達と一緒にお話を楽しみたい!」という熱い思いに後押しされてのスタートでした。「たんぽぽのわた毛が風で飛ばされて、おはなし会の輪が広がったらいいな」というのが名前の由来です。

当時公民館には、図書室や畳の部屋、武徳殿と呼ばれる武道場があり、参加する子ども達に合わせておはなしの部屋を作っていました。絵本の数も少なく、決して恵まれた環境だとは言えませんでした。同じ思いを持つ仲間、おはなし会を楽しみに足を運ぶ子ども達との交流は、何物にも代えられない貴重な経験です。そして、それが現在のおはなし会活動の原動力になっています。

昭和60年、島原図書館の建設が始まると、活動の場は現・森岳公民館に移りました。おはなし会に来る子ども達も馴染みの顔ぶれが増え、活動も少しずつ軌道に乗ってきました。絵本の読み聞かせに加え、16ミリフィルムの上映や会員手作りの人形劇の上演等、工夫を凝らした新しい取り組みをしたのも、このころです。

昭和61年7月、いよいよ待ちに待った島原図書館が開館しました。と同時に、たんぽぽの活動の場も図書館に移り、恵まれた環境の中で再スタートしたのです。おはなしのプログラムの中に、視聴覚ホールでの映画の上映が新たに加わりました。

そして20年……メンバーも入れ替わり、おはなし会に参加する子ども達も替わりましたが、今もあのことと同じ思いで“たんぽぽ”は活動が続いています。当時おはなし会に参加していた子ども達も、20数年の歳月を経て大人になりました。その中には、我が子の手を引いておはなし会に参加している「常連さん」がいるかも知れません。

そして——たんぽぽのわた毛は飛びました。平成2年、図書館から遠い白山地区の子ども達にも、楽しい絵本との出会いの場をとということで、“白山おはなしの森”ができました。さらにわた毛は、杉谷地区（杉の子おはなしの泉）、安中地区（安中ぐり・ぐらおはなし会）にも飛んで行き、公民館を拠点に、読みきかせボランティアと地域の子も達が、絵本を通して交流を深めています。また、市内各小学校でも図書ボランティアの方々が、子ども達と学校図書室をつなぐ大事なパイプ役として活躍されています。

この20年の間に子ども達を取り巻く読書環境は、大きく変化しました。学校における朝の読書活動、家族読書の推進、ブックスタート等々。社会がやっと、読書の大切さや家族のふれあいの大切さに目を向けるようになったのかも知れません。と同時に、図書館の果たす役割も多様化してきました。資料を収集・保存・提供する場としての役割に加えて、住民のいこいの場としての要素も求められるようになりました。

島原図書館が、今後、情報の発信地であり、また地域のコミュニティセンターとして発展していくことを、切に願います。そして、私も、いつまでもたんぽぽのわた毛を飛ばし続けることを約束して、お祝いの言葉といたします。

出典：『島原図書館 開館20周年記念誌』 島原図書館 平成18年10月



Press Release



令和5年度子供の読書活動に係る文部科学大臣表彰について

LINEで送る

ツイート

シェア

2023年3月20日更新 [このページを印刷する](#)

担当課 生涯学習課

担当者名 柴田、村上

電話番号 直通：095-894-3363
内線：5830

趣旨

読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。

国民の間に広く子供の読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）に対し、その実践をたたえ文部科学大臣が表彰する。

日時

令和5年4月23日 日曜日 13時00分から16時50分（予定）

（令和5年度「子ども読書の日」記念 子どもの読書活動推進フォーラム において表彰）

場所

国立オリンピック記念青少年総合センター
東京都渋谷区代々木神園町3番1号

被表彰学校、図書館、団体

- ① 学校
長崎市立朝日小学校 佐世保市立山手小学校 長崎県立西陵高等学校
- ② 図書館
南島原市原城図書館
- ③ 団体
グループ たんぼぼ（島原市）

添付資料

[表彰概要「PDFファイル／183KB」](#)

令和5年3月20日

文部科学省令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）について

この表彰は、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）に対し、その実践を称え、文部科学大臣が表彰するものです。

本年度の表彰について、文部科学省から連絡がありましたので下記のとおりお知らせします。

記

1 被表彰学校・図書館・団体

(1) 学校

- ・長崎市立朝日小学校
- ・佐世保市立山手小学校
- ・長崎県立西陵高等学校

(2) 図書館

- ・南島原市原城図書館

(3) 団体

- ・グループ たんぽぽ（島原市）

2 表彰式

(1) 日時 令和5年4月23日（日）13:00～16:50（予定）

(2) 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

※ 令和5年度「子ども読書の日」記念 子どもの読書活動推進フォーラム
の中で表彰式が行われる。

3 その他

○ 本県における過去3年間の被表彰校等は以下のとおりです。

年度	被表彰館
令和4年度	長崎県立ろう学校、時津町立時津図書館 みずほ なかよし会（雲仙市）
令和3年度	佐世保市立吉井南小学校、佐々町立佐々小学校 長崎県立佐世保工業高等学校、松浦市立図書館 おとぎのへや読み語りの会（諫早市）
令和2年度	松浦市立福島養源小学校、西海市立西海中学校 活水高等学校 活水中学校、平戸市立平戸図書館

令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）概要

長崎市立朝日小学校（ながさきしりつあさひしょうがっこう）

住所	〒852-8006 長崎県長崎市平戸小屋町10番1号 Tel：095-861-8773
概要	教育課程全体と関連付けた年間計画を踏まえ、図書担当教諭、学校図書館司書を中心とした読書活動を推進しており、公共図書館との積極的な連携に加え、授業や行事等における図書資料の活用や、児童がタブレットで電子図書館の蔵書を確認できるような活用を進めている。また、図書委員会の児童を中心とした積極的な取組も行われ、児童一人当たりの年間貸出冊数が大幅に増加している。

佐世保市立山手小学校（させぼしりつやまてしょうがっこう）

住所	〒857-0022 長崎県佐世保市山手町16番38号 Tel：0956-24-7444
概要	各教科等における学校図書館の活用や、並行読書のための本を教室に準備するなど、学校図書館、図書資料が積極的に活用されている。図書委員会の児童による積極的な読書活動や、一人一台端末を利用した読書活動推進のための特色ある取組が行われていることに加え、公共図書館の団体貸出や電子書籍を積極的に活用し、授業やクラブ活動でも公共図書館を利活用している。

長崎県立西陵高等学校（ながさきけんりつせいりょうこうとうがっこう）

住所	〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋1387-2 Tel：0957-43-4155
概要	20年以上続いている朝の「黙読の時間」をはじめ、長く続けている活動に改善を図りながら現在まで生徒主体で活動を継続している。 選書会や公共図書館との連携など生徒の活動を取り入れた新たな取組も積極的に行い、生徒の読書活動の契機や充実につながる企画と、学習センターとしての機能の充実を図る方策が多面的であり、他校の模範となる活動を行っている。

南島原市原城図書館（みなみしまばらしはらじょうとしょかん）

住所	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1314番地 Tel：0957-73-6767
概要	学校・地域と連携し、様々なイベントを実施することで、読書や図書館を利用する楽しさを伝えている。自治会公民館を訪問し、おはなし会や工作教室をとおして親子で本に親しむ機会と場を提供しており、おはなしの部屋での読み聞かせや館内の展示等工夫した取組により子どもが本に親しみやすい環境の整備をおこなっている。

グループ たんぽぽ（島原市）

住所	〒855-0036 長崎県島原市城内1丁目1202 島原図書館 Tel：0957（64）4115
概要	約40年にわたる地道な活動の中で、学校や幼稚園、保育園、公民館等との連携により、地域の子どもの読書活動に力を尽くしてきた団体である。市や図書館が主催する研修会に積極的に参加することで、他の団体との交流を深め、長年にわたる子どもの読書活動の経験を多くの人に伝えている。また、他のボランティア団体の依頼により研修会の講師を務めたり、個別の相談に対応したりと、市内図書ボランティア団体の活動を支える存在であり、子どもたちのために、先頭にたって活動を継続している。